

チャレンジ！THE ごみダイエット アンケート調査結果

アンケート内容

問1 彦根市の1人1日当たりのごみの排出量が、県内で一番多いことを知っていましたか？

1. 知っていた
2. 知らなかった

問2 彦根市のごみの処理に1年間で約12億円も使われています。どうすればごみが減ると思いますか？

1. 無駄な買い物をしない
2. 食べ残しをしない
3. お茶やコーヒーなどは、水筒に入れて持って出かける
4. マイバッグを持ち歩く
5. マイ箸を持ち歩く
6. 生ごみは、水を切ってから捨てる
7. 生ごみは、堆肥化する
8. その他

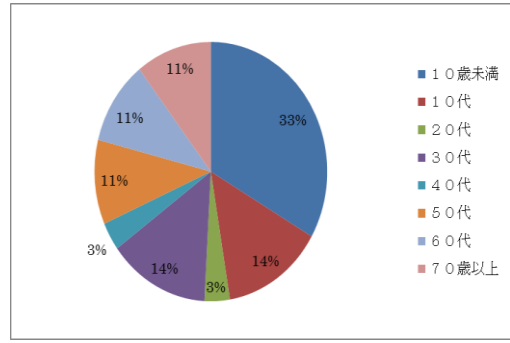
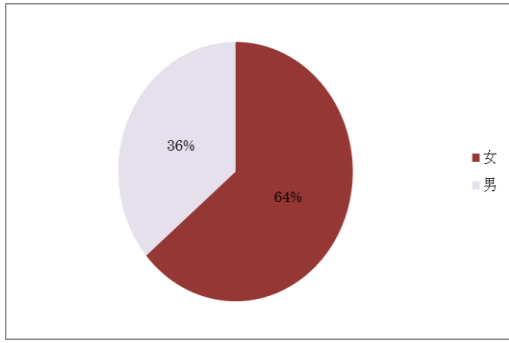
問3 また、あなたができると思うことはどれですか？上の中から数字をお書きください。

アンケート回答数：65件（うち性別、年代の無記入回答8件）

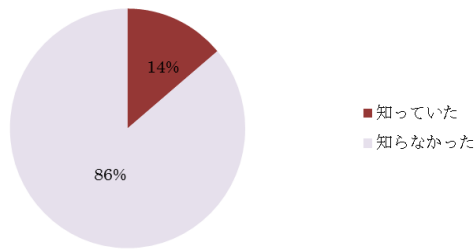
年代別回答数：	10代未満	19件	
	10代	8件	
	20代	2件	
	30代	8件	
	40代	2件	
	50代	6件	
	60代	6件	
	70代以上	6件	計 57件

階層別回答数：	学生層（6～20歳以下）	25件	
	現役層（21～59歳）	17件	
	退職層（60歳以上）	12件	計 54件

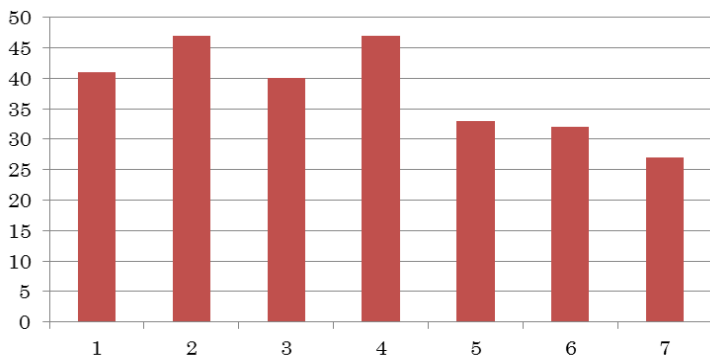
全体



問1 県内ワースト1と知っていますか？

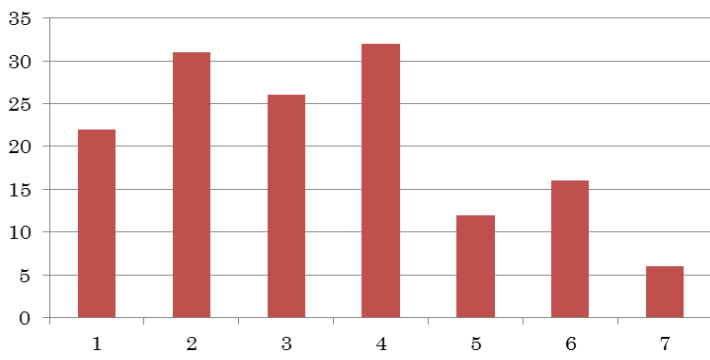


問2 どうすればごみが減ると思いますか？



1. 無駄な買い物をしない
2. 食べ残しをしない
3. お茶やコーヒーなどは、水筒に入れて持って出かける
4. マイバッグを持ち歩く
5. マイ箸を持ち歩く
6. 生ごみは、水を切ってから捨てる
7. 生ごみは、堆肥化する

問3 あなたができると思うことは？



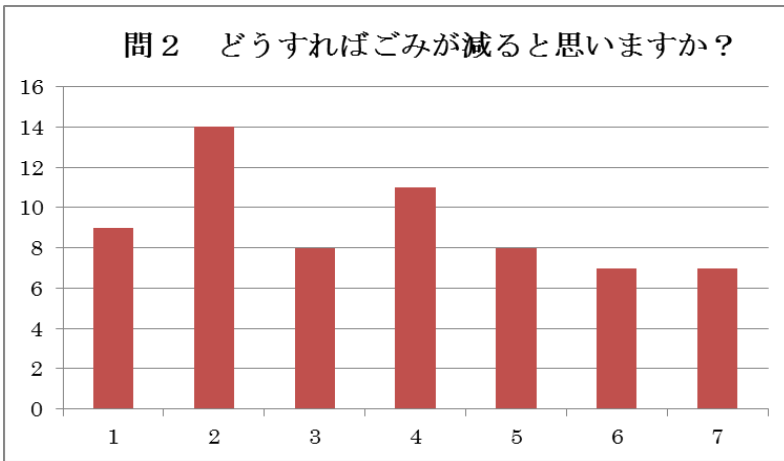
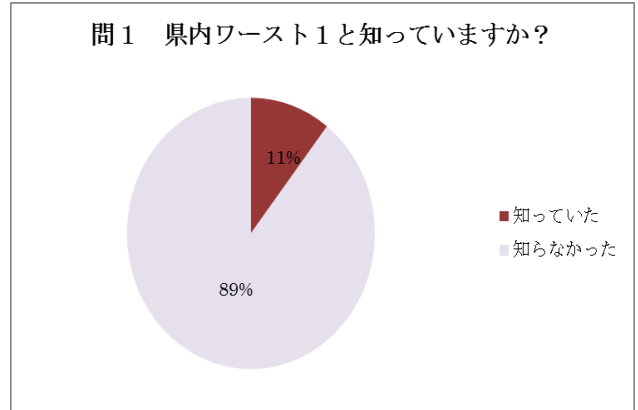
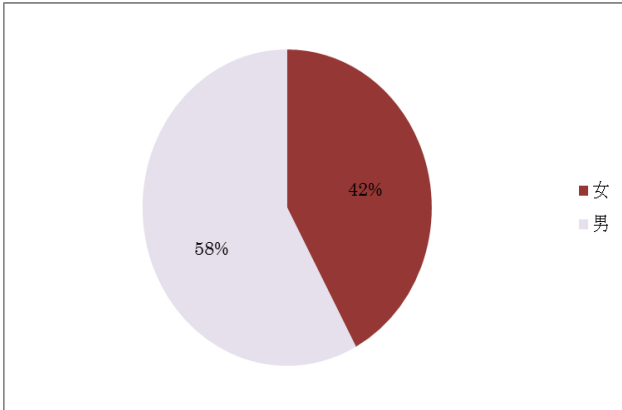
増減少率

1. 46%減
2. 34%減
3. 35%減
4. 32%減
5. 64%減
6. 50%減
7. 78%減

結果・考察

- ・ごみ減量の方法として、「食べ残しをしない」、「マイバッグを持ち歩く」が最も多かった。
- ・マイ箸や生ごみの水切り・堆肥化の有効性も理解されているようだが、実際に自分が実践するとなると難しいと考えるようである。

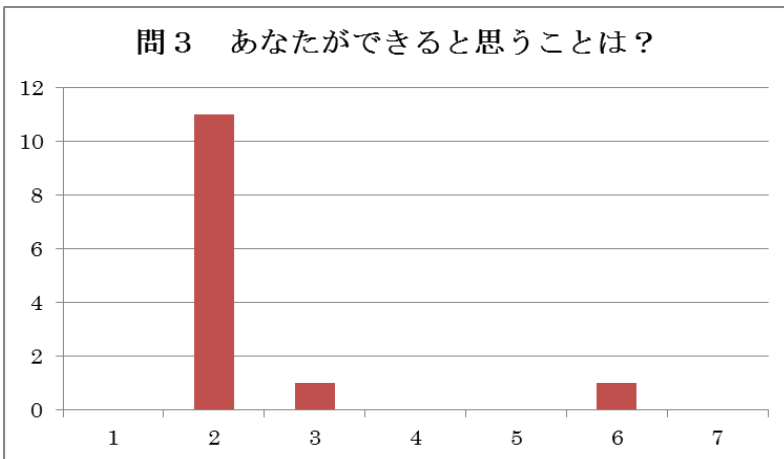
10代未満



1. 無駄な買い物をしない
2. 食べ残しをしない
3. お茶やコーヒーなどは、水筒に入れて持って出かける
4. マイバッグを持ち歩く
5. マイ箸を持ち歩く
6. 生ごみは、水を切ってから捨てる
7. 生ごみは、堆肥化する



増減少率

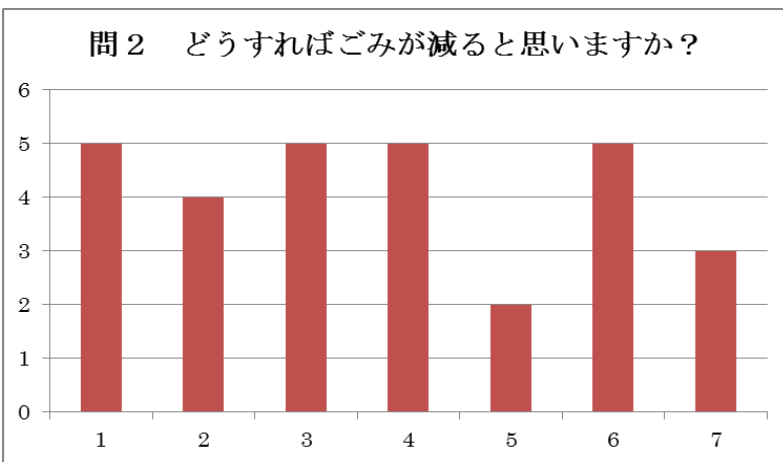
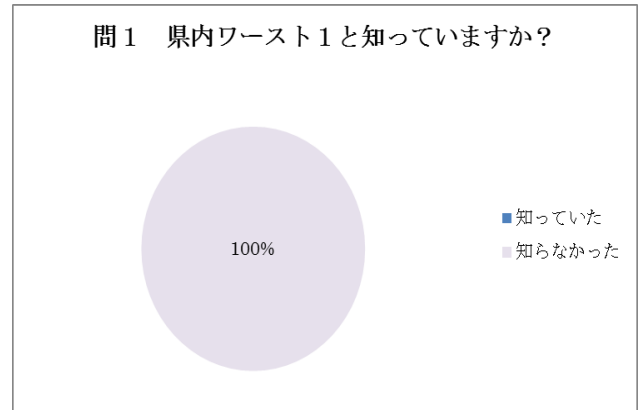
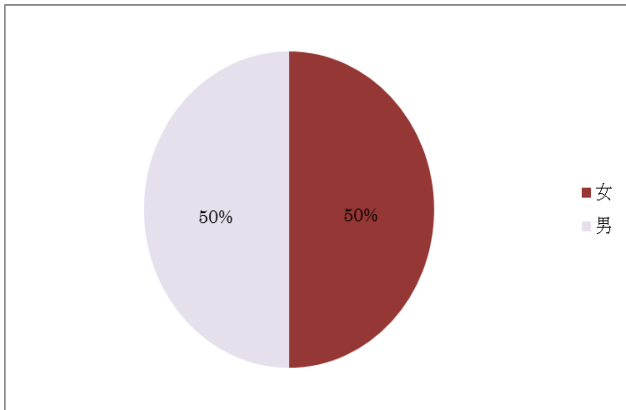


1. 100%減
2. 21%減
3. 87%減
4. 100%減
5. 100%減
6. 86%減
7. 100%減

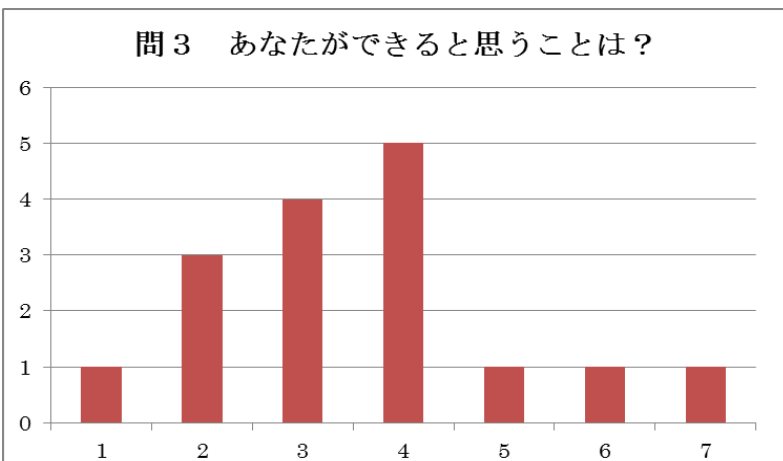
結果・考察

- ・問1に「知っている」の回答があったことに疑問はあるが、当日の啓発用パネルを見てからアンケートに回答した可能性もある。
- ・ごみ減量のために自分にできることが「食べ残しをしない」に集中しているのは当然の結果と考えられる。

10代



1. 無駄な買い物をしない
2. 食べ残しをしない
3. お茶やコーヒーなどは、水筒に入れて持って出かける
4. マイバッグを持ち歩く
5. マイ箸を持ち歩く
6. 生ごみは、水を切ってから捨てる
7. 生ごみは、堆肥化する



増減少率

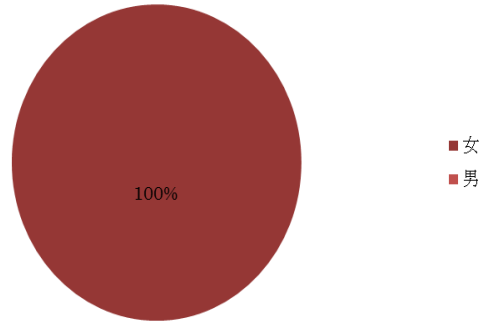
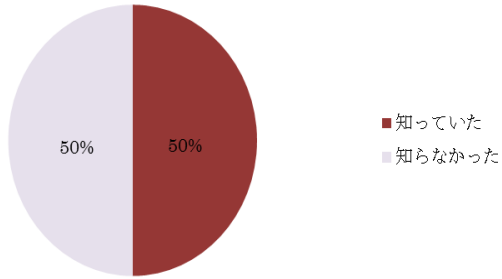
1. 80%減
2. 25%減
3. 20%減
4. 0%
5. 50%減
6. 80%減
7. 67%減

結果・考察

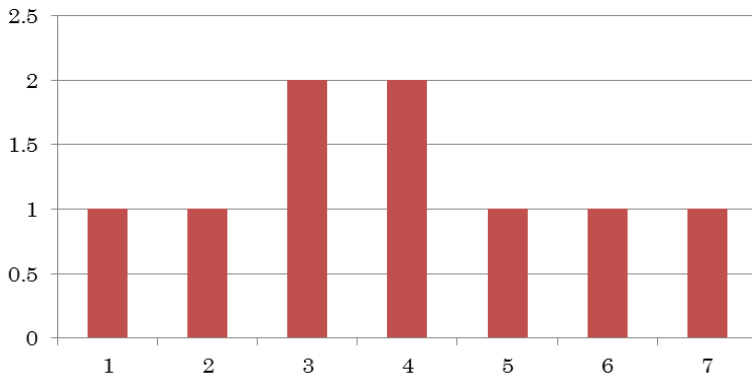
- ・10代では、マイ箸による割り箸の減量効果について理解が少ないようである。
- ・マイバッグの持参については、10代にも浸透しているようだ。
- ・「無駄な買い物をしない」、「生ごみの水切り」に減量効果があると理解されているが、自分で家事や買い物をする機会が少ないことから実践につながらないと考えているようである。

20代

問1 県内ワースト1と知っていますか？



問2 どうすればごみが減ると思いますか？

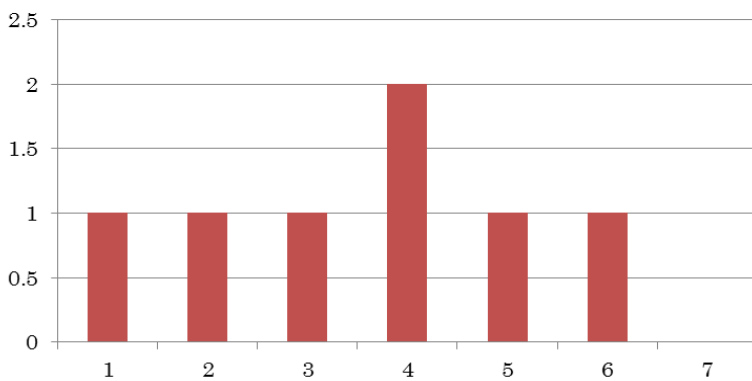


1. 無駄な買い物をしない
2. 食べ残しをしない
3. お茶やコーヒーなどは、水筒に入れて持って出かける
4. マイバッグを持ち歩く
5. マイ箸を持ち歩く
6. 生ごみは、水を切ってから捨てる
7. 生ごみは、堆肥化する



増減少率

問3 あなたができると思うことは？

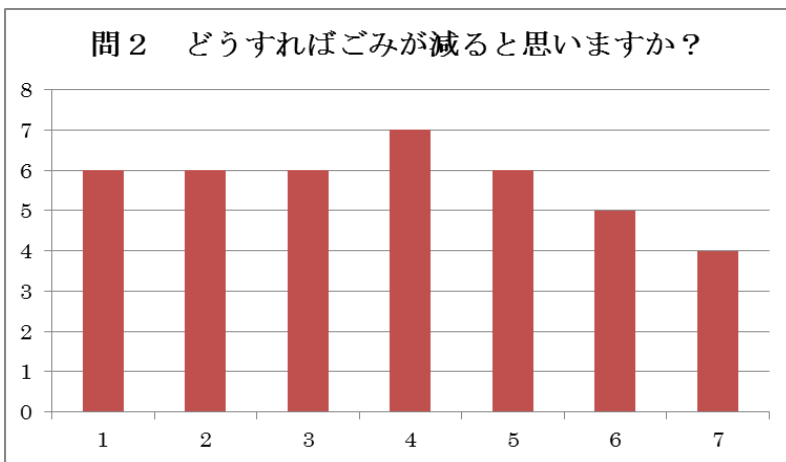
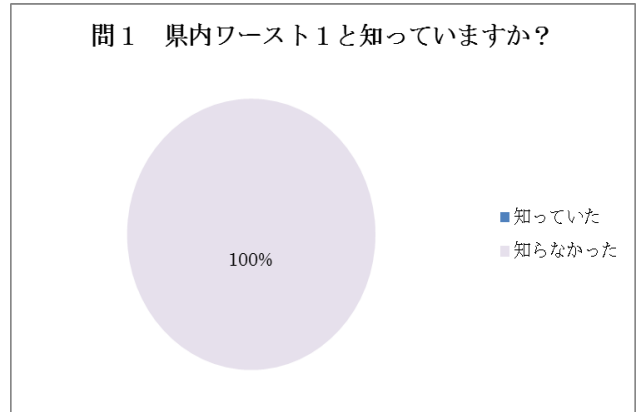
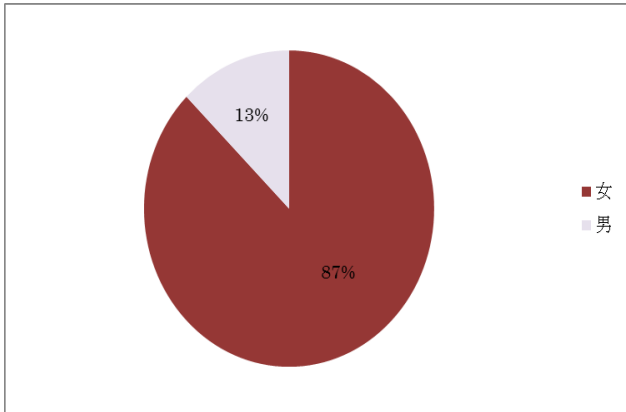


- | | |
|----|-------|
| 1. | 0% |
| 2. | 0% |
| 3. | 50%減 |
| 4. | 0% |
| 5. | 0% |
| 6. | 0% |
| 7. | 100%減 |

結果・考察

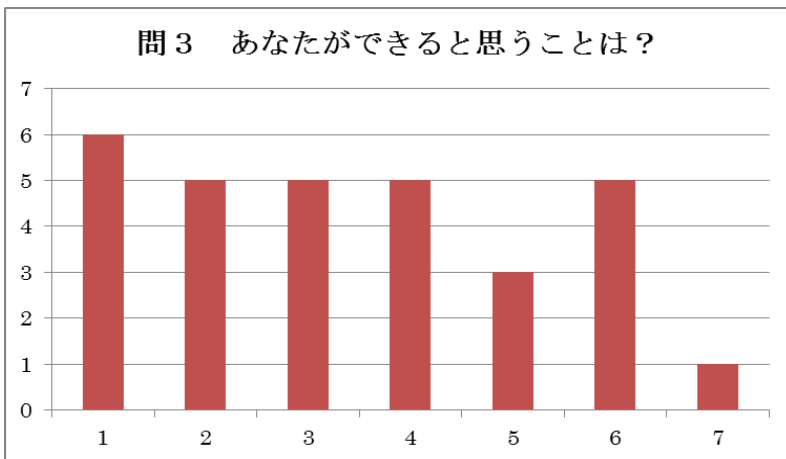
- ・回答者が2名であることからデータとしては不適當
- ・マイバッグ持参については浸透しているようだ。
- ・2名については、生ごみの堆肥化の実践は難しいと考えている。

30代



1. 無駄な買い物をしない
2. 食べ残しをしない
3. お茶やコーヒーなどは、水筒に入れて持って出かける
4. マイバッグを持ち歩く
5. マイ箸を持ち歩く
6. 生ごみは、水を切ってから捨てる
7. 生ごみは、堆肥化する

↓ 増減少率

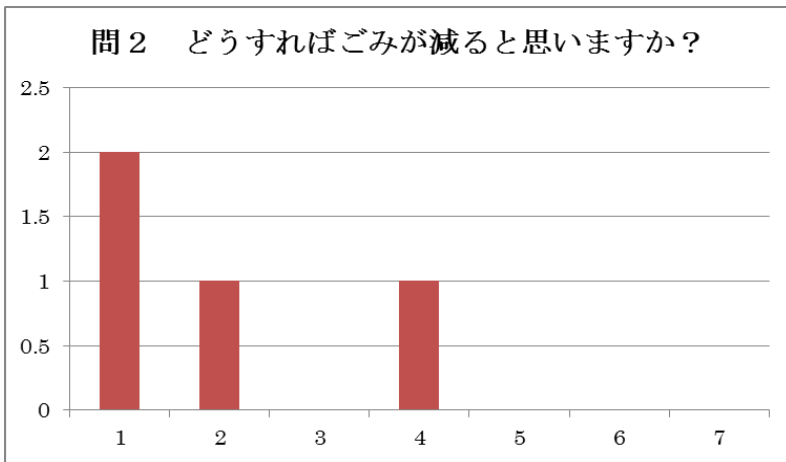
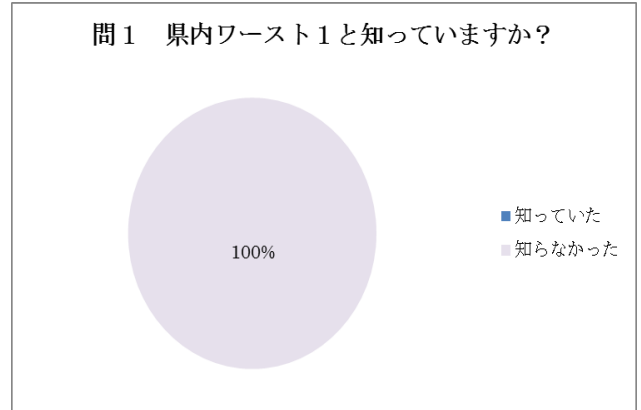
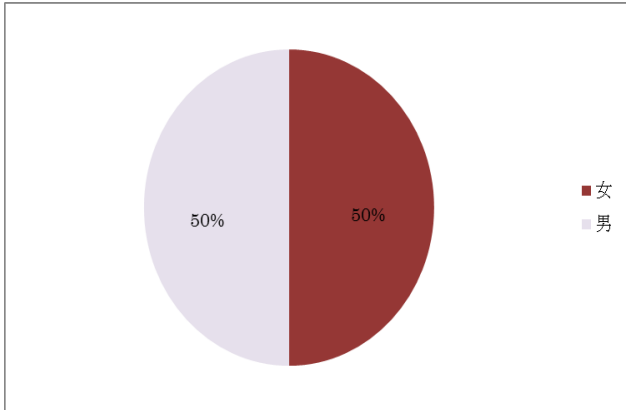


- | | |
|----|-------|
| 1. | 0% |
| 2. | 17%減 |
| 3. | 17%減 |
| 4. | 29%減 |
| 5. | 50%減 |
| 6. | 100%減 |
| 7. | 75%減 |

結果・考察

- ・マイバッグ持参については浸透しているようだ。
- ・回答者の87%が女性であり、生ごみの水切り実践は意識されているようである。
- ・マイ箸持参の効果や生ごみの堆肥化による減量効果は理解していても、実践は難しいと考えているようである。

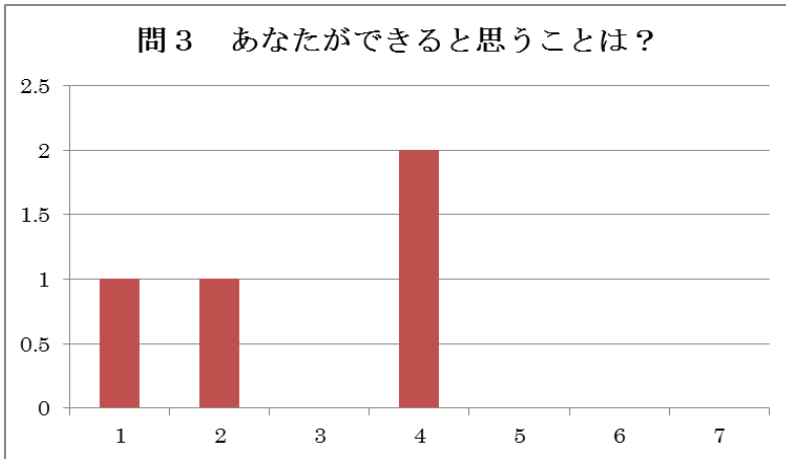
40代



1. 無駄な買い物をしない
2. 食べ残しをしない
3. お茶やコーヒーなどは、水筒に入れて持って出かける
4. マイバッグを持ち歩く
5. マイ箸を持ち歩く
6. 生ごみは、水を切ってから捨てる
7. 生ごみは、堆肥化する



増減少率

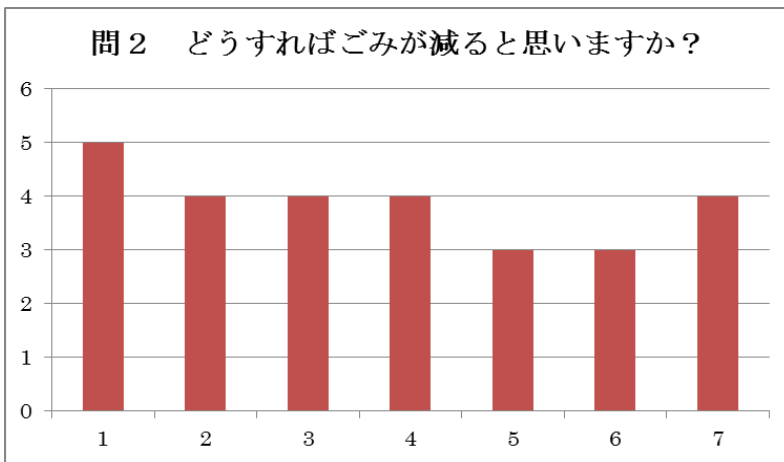
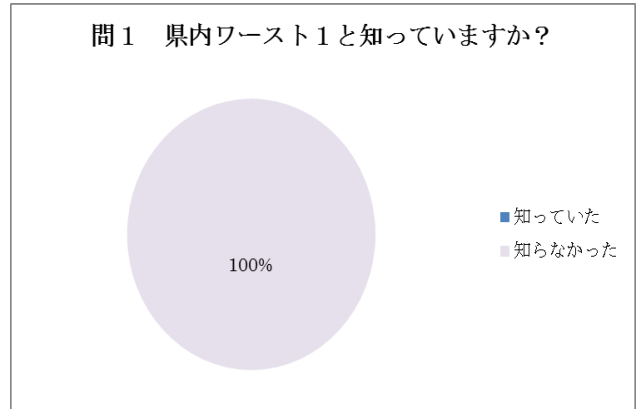
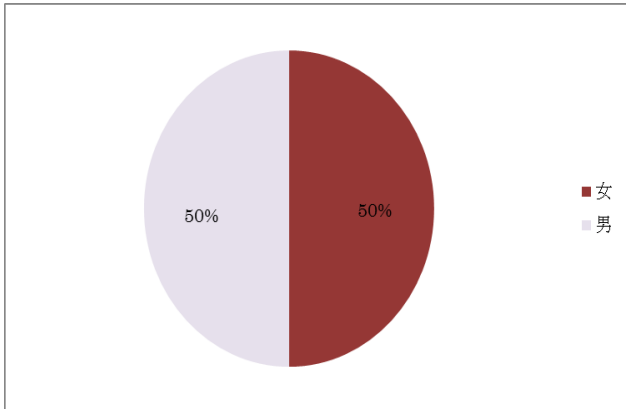


- | | |
|----|-------|
| 1. | 50%減 |
| 2. | 0% |
| 3. | - |
| 4. | 100%増 |
| 5. | - |
| 6. | - |
| 7. | - |

結果・考察

- ・回答者が2名であることからデータとしては不適當
- ・2名共に「水筒持参」、「マイ箸持参」、「生ごみの水切り」、「生ごみの堆肥化」について回答がないことから、40代のごみ減量に関する意識が気になるところである。
- ・1名については、マイバッグ持参がごみ減量に効果がないと思いながらも、実践はできると考えたようである。

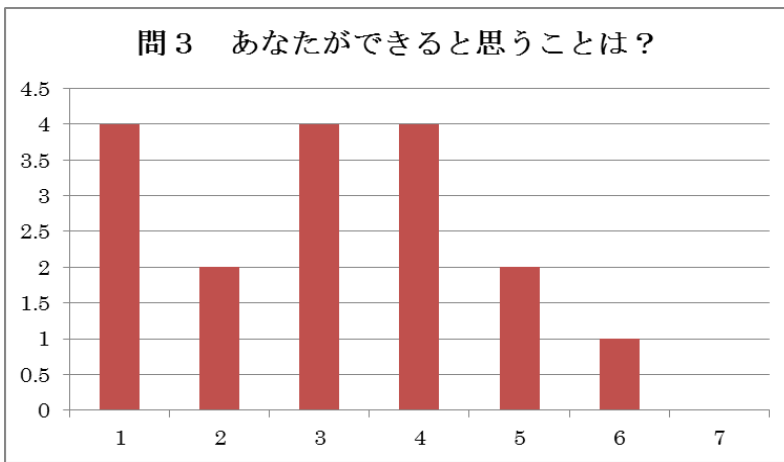
50代



1. 無駄な買い物をしない
2. 食べ残しをしない
3. お茶やコーヒーなどは、水筒に入れて持って出かける
4. マイバッグを持ち歩く
5. マイ箸を持ち歩く
6. 生ごみは、水を切ってから捨てる
7. 生ごみは、堆肥化する



増減少率

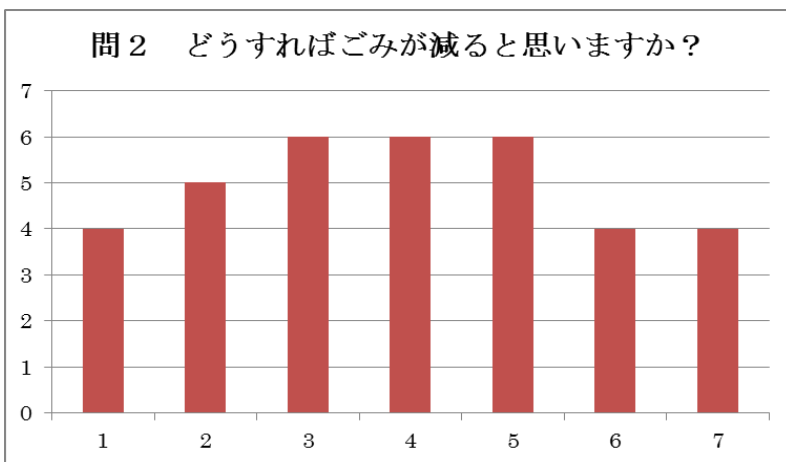
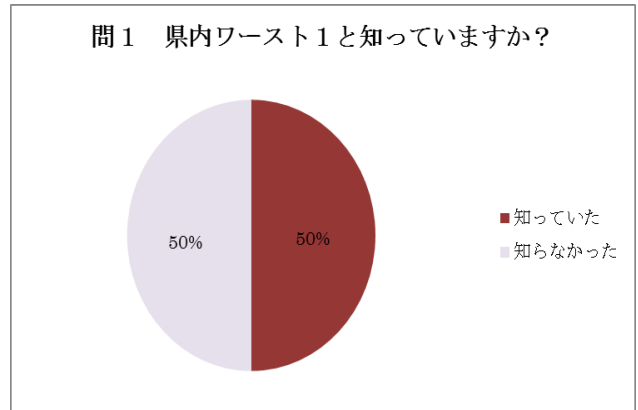
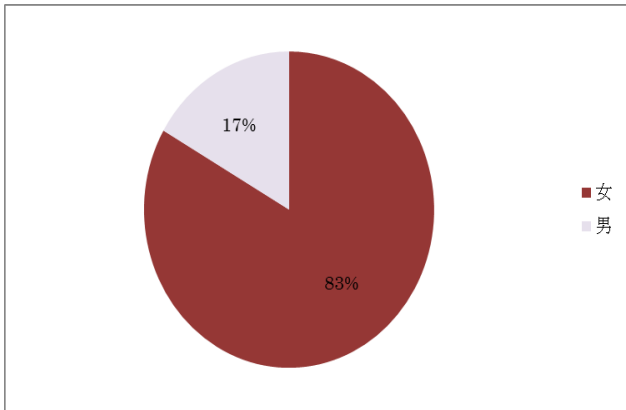


- | | |
|----|-------|
| 1. | 20%減 |
| 2. | 50%減 |
| 3. | 0% |
| 4. | 0% |
| 5. | 33%減 |
| 6. | 67%減 |
| 7. | 100%減 |

結果・考察

- ・無駄な買い物をしないことや水筒、マイバッグ持参については意識が高いようである。
- ・食べ残しについては、ごみ減量に効果があると理解しているものの現実と相違しているようである。
- ・生ごみの水切りや堆肥化についてもごみ減量に効果があると理解しているものの、実践は難しいと考えているようである。

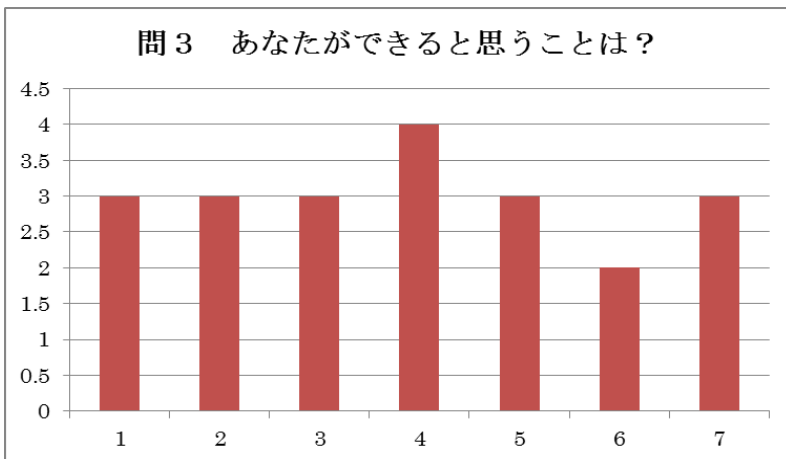
60代



1. 無駄な買い物をしない
2. 食べ残しをしない
3. お茶やコーヒーなどは、水筒に入れて持って出かける
4. マイバッグを持ち歩く
5. マイ箸を持ち歩く
6. 生ごみは、水を切ってから捨てる
7. 生ごみは、堆肥化する



増減少率

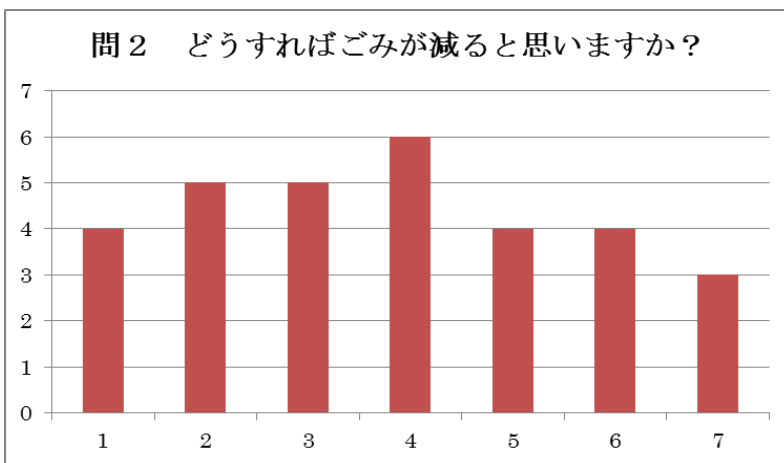
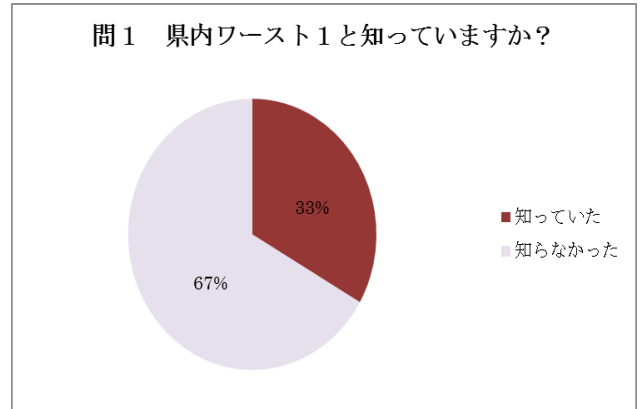
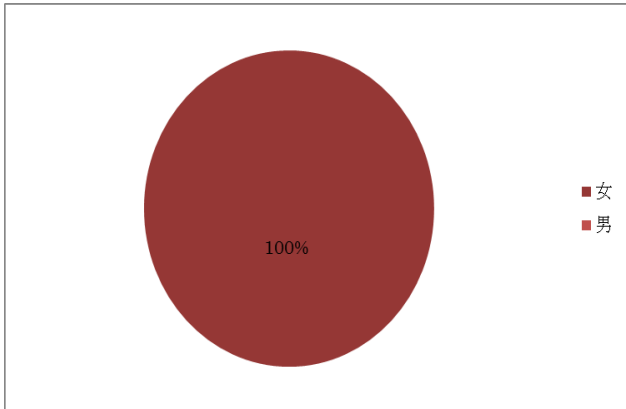


1. 25%減
2. 40%減
3. 50%減
4. 33%減
5. 50%減
6. 50%減
7. 25%減

結果・考察

- ・ 県内ワーストワンについて、半数が知っていた。
- ・ マイバッグ持参については意識が高いようである。
- ・ 生ごみの減量の実践については、水切りよりも堆肥化が多くなっている。

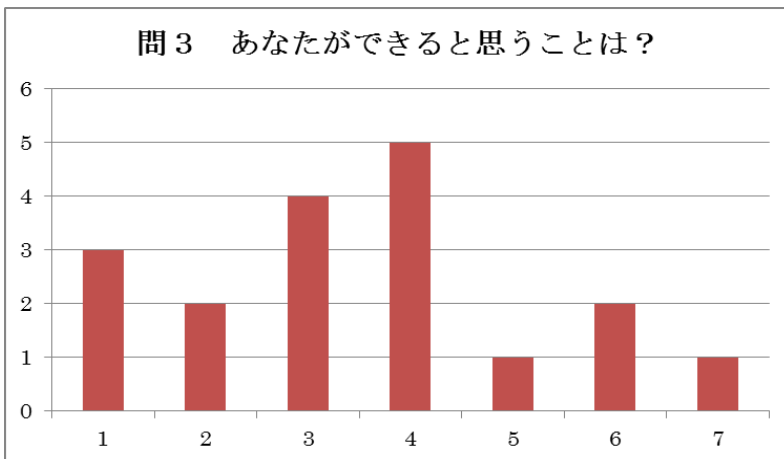
70代以上



1. 無駄な買い物をしない
2. 食べ残しをしない
3. お茶やコーヒーなどは、水筒に入れて持って出かける
4. マイバッグを持ち歩く
5. マイ箸を持ち歩く
6. 生ごみは、水を切ってから捨てる
7. 生ごみは、堆肥化する



増減少率

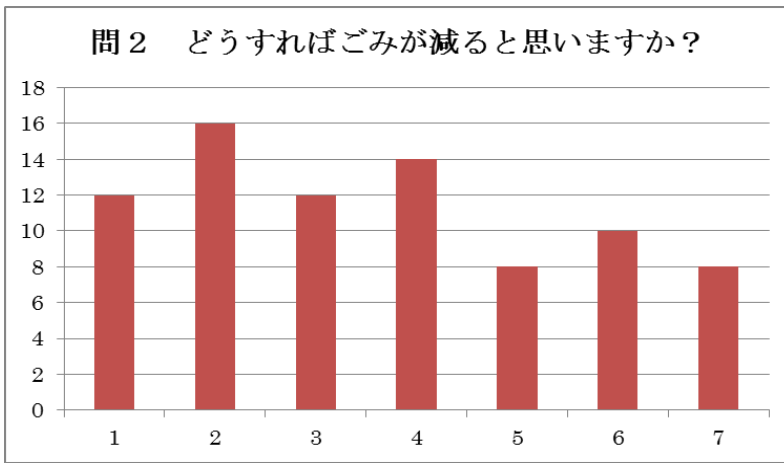
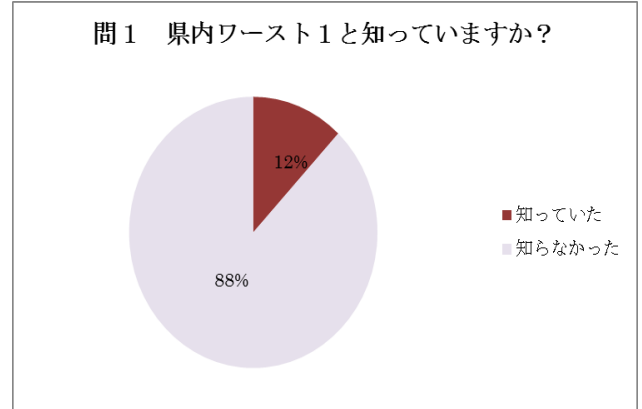
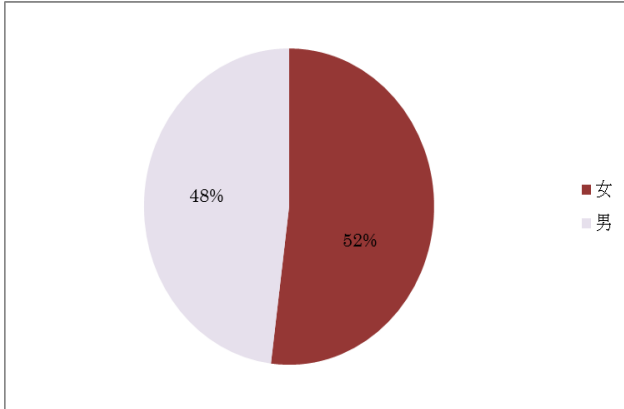


1. 25%減
2. 60%減
3. 20%減
4. 17%減
5. 75%減
6. 50%減
7. 67%減

結果・考察

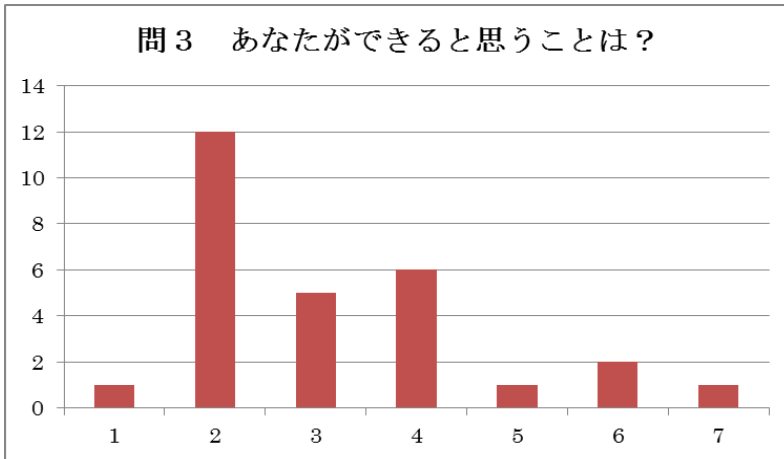
- ・マイバッグ持参について意識が高いようである。
- ・無駄な買い物をしないことについては、意識が低いようである。
- ・戦後の厳しい時代を経験している世代であるにもかかわらず、食べ残しをしない事について意識が低いようである。
- ・マイ箸持参や生ごみ減量の実践は難しいと考えているようである。

学生層



1. 無駄な買い物をしない
2. 食べ残しをしない
3. お茶やコーヒーなどは、水筒に入れて持って出かける
4. マイバッグを持ち歩く
5. マイ箸を持ち歩く
6. 生ごみは、水を切ってから捨てる
7. 生ごみは、堆肥化する

↓
増減少率

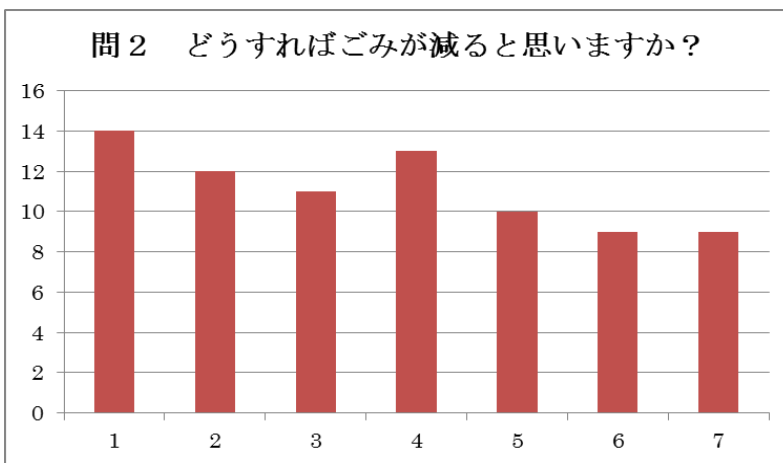
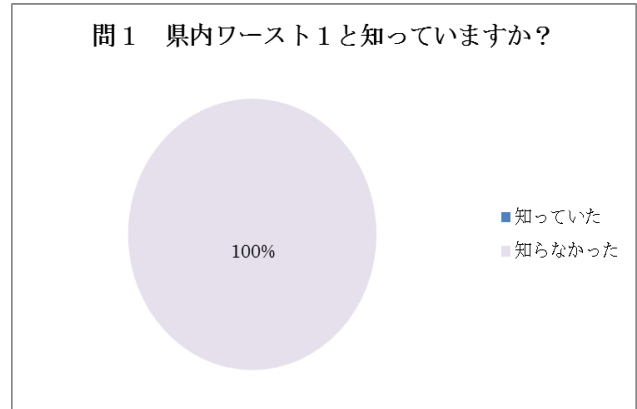
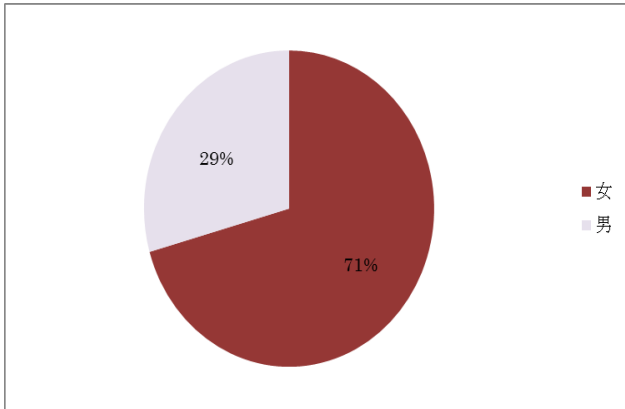


1. 92%減
2. 25%減
3. 58%減
4. 57%減
5. 87%減
6. 80%減
7. 87%減

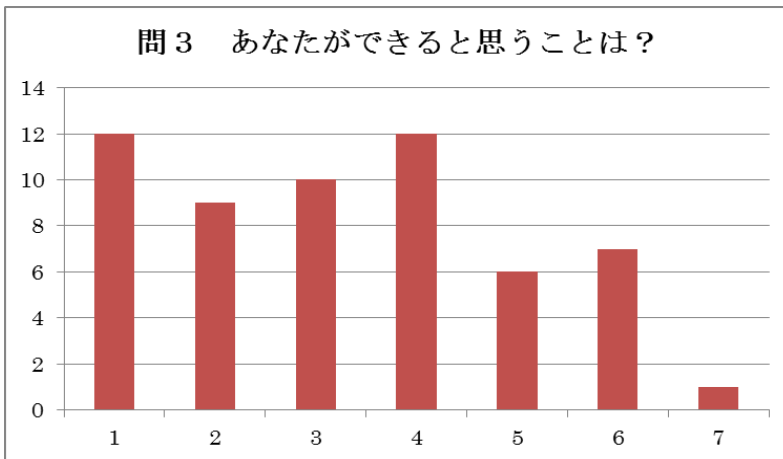
結果・考察

- ・学生層の92%が小学生となるため、「食べ残しをしない」こと以外は、普段の生活と直接関係のないものであるため、減量効果があるとわかっているにもかかわらず実践とはつながらないようである。

現役層



1. 無駄な買い物をしない
2. 食べ残しをしない
3. お茶やコーヒーなどは、水筒に入れて持って出かける
4. マイバッグを持ち歩く
5. マイ箸を持ち歩く
6. 生ごみは、水を切ってから捨てる
7. 生ごみは、堆肥化する



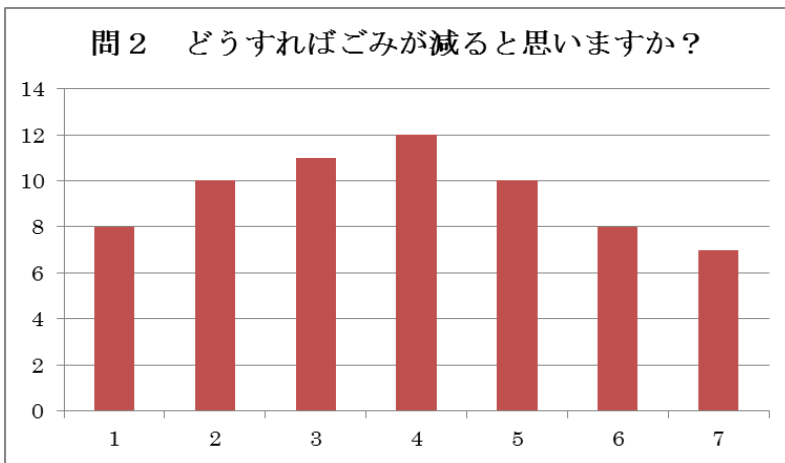
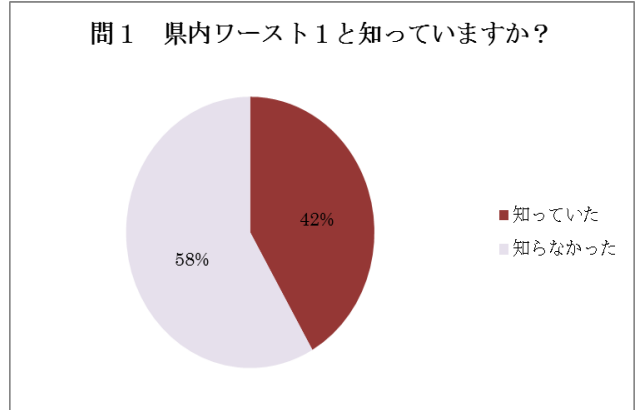
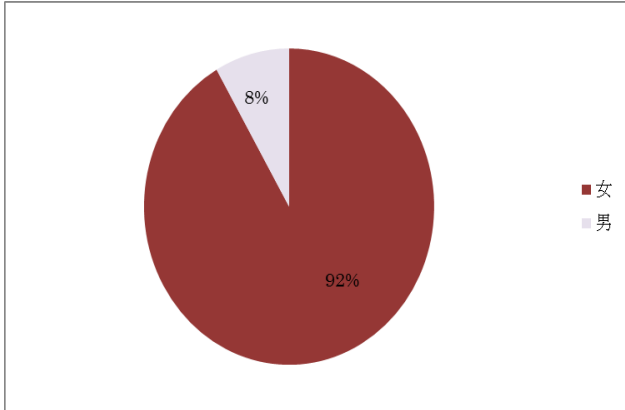
↓ 増減少率

- | | |
|----|------|
| 1. | 14%減 |
| 2. | 25%減 |
| 3. | 9%減 |
| 4. | 8%減 |
| 5. | 40%減 |
| 6. | 22%減 |
| 7. | 89%減 |

結果・考察

- ・県内ワーストワンの情報は誰も知らなかった。
- ・「無駄な買い物をしない」、「マイバッグ持参」についての意識は高いようである。
- ・マイ箸持参や生ごみの減量については、減量効果はあると理解しているものの実践は難しいと考えている。特に「生ごみの堆肥化」が難しいと考えているようである。

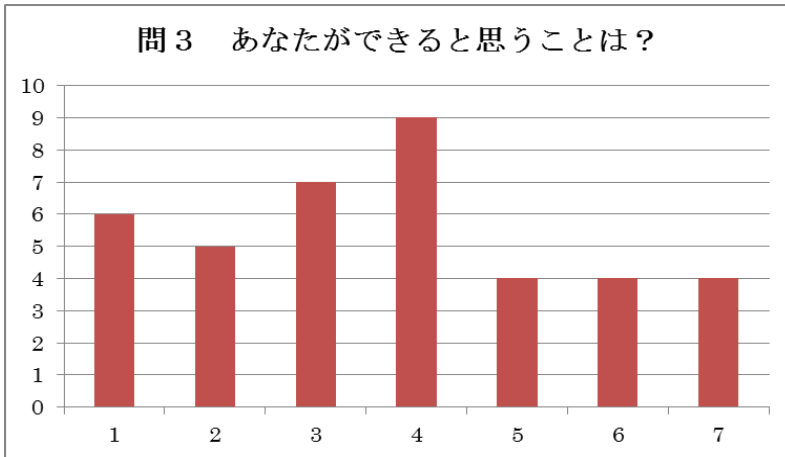
退職層



1. 無駄な買い物をしない
2. 食べ残しをしない
3. お茶やコーヒーなどは、水筒に入れて持って出かける
4. マイバッグを持ち歩く
5. マイ箸を持ち歩く
6. 生ごみは、水を切ってから捨てる
7. 生ごみは、堆肥化する



増減少率



1. 25%減
2. 50%減
3. 36%減
4. 25%減
5. 60%減
6. 50%減
7. 43%減

結果・考察

- ・ 県内ワースト1の情報を知っていたものが42%であった。
- ・ 全体的にごみ減量意識は高いと思われる。

アンケート結果からの考察

- ・本市の1人1日あたりのごみ等排出量が県内で最も悪い状況であることについては、チャレンジ! THE ごみダイエット開催の案内を広報ひこねに掲載した際に情報提供した以外では、当日のイベントでパネル展示しただけであることから、情報を知っている方は全体の14%であった。
- ・情報を知っていたのが、60歳以上の退職層に偏っていることから、広報ひこねに関心を持っているのは、日常的に家庭に居る世代であることが推測される。
- ・全ての世代に情報を発信する方法と世代に合わせた啓発の方法を検討する必要がある。
- ・マイバッグ持参については、全ての世代に浸透しつつあるようだ。ただし、小・中学生については、実践が伴わないと考えられる。
- ・マイ箸による割り箸の削減については理解されているようだが、実践が伴わないようである。
- ・生ごみの水切りや堆肥化による削減については理解されているようだが、実践が伴わないようである。特に堆肥化については、実践が難しいと考えられているようである。その理由として考えられるのは、①堆肥化の方法がわからない。②臭いが嫌である。③堆肥として使う方法がない。などである。
- ・どの項目についても、ごみ減量に効果があると理解していても、実際に自分ができるかと問われると難しいと考えるようである。
- ・今回のアンケートの回答は、64%が女性であり、20歳以上においては80%が女性であったことから、仮に女性が家事におけるごみ出しを担っておられる場合、今回の結果からは、マイバッグ持参によるレジ袋の削減効果は期待できるものの、生ごみの水切りや堆肥化による減量効果は期待が持てないと思われ、今後の生ごみ減量の啓発に課題が残る結果となった。また、食べ残しに対する意識が低いことから、子ども達への影響が懸念される。
- ・今回のアンケートは回答が少なく、特に男性、40代のデータが少なかったことから、相対的な結果が得られていない。新たなデータ収集が必要である。